

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：道悦島自治会

開催場所：道悦島公民館

開催日時：平成 28 年 8 月 24 日（水）19 時 00 分～20 時 35 分

参加者：自治会側【地域住民の方 9 人】

市側【染谷市長、濱田教育長、牛尾理事、眞鍋危機管理部長、杉村地域生活部長、横田川健康福祉部長、今村こども未来部長、畑教育部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、田原六合公民館長】

内 容

① 太田自治会長あいさつ

- ・当町は、6つの町内（道悦1丁目～5丁目、高島町）からなっており、本日は各町内会長（役員）が出席させてもらい、市長から市政報告をお聞きし、また意見交換をさせていただく。
- ・市長からお話を伺う前に、8月15日（月）の夜間、集中豪雨によって町内に流れる河川が増水した。そこに通りかかった女子中学生が川に落ちて身動きが取れずにいた。たまたま見回りをしていた町内会役員（池谷氏）が発見し、後に消防署員と共に無事救出したということがあった。池谷氏の見つけが遅れていれば、死亡事故となっていたかもしれない。このような事故が今後起こらないように、島田市の専門職員に現場を確認してもらい、対応方法を検討していただきたい。本日は、本件に関わった池谷氏に来ているので、当時のことを本人から報告させたいがよろしいか。

【池谷氏から上記の救助及び河川の状況等の説明を受けた】

- ・事件のあった河川は、道悦4丁目16-41地先 河川の幅は、1.8m、深さ1.0m程度
- ・その河川は、年に数回大水が出て溢れてしまう。
- ・事件当日、たまたま河川の状況を見回っていた所、川に落ちた女子中学生を発見した。
- ・消防署に通報し、自分と自分の息子、消防署と一緒に中学生を無事救助した。
- ・大雨があるときは、地元住民は水路が増水して危険であると認識しているが、女子中学生は地元の子供ではなかった。（高島町）
- ・夜であったため、道路と水路の境がわからなかったと思われる。道路と水路の境には特になにも設置されていない状況。
- ・今後も同様な事件が起きる可能性があるため、市で現場を確認してもらい、今後の対応方法を検討していただきたい。

【説明後、市長から】

- ・本件は、消防や都市基盤部から報告を受けておらず初めてお聞きした。今後、報告として情報が上がってくるとされる。
- ・この河川の管理者が誰なのか確認させていただき、併せてどんな対応が出来るのか検討させていただきたい。
- ・年に数回溢れてしまうのは、河川のその場所だけ問題ではなくて、そこに流れ込む水の問題なので、調整池等や広範囲な問題があると思われる。
- ・側溝であれば蓋をする方法もあるが、今後の安全対策を含めて職員に現場を確認させる。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・道悦島の皆さんには、毎年呼んでもらい最低でも3回はこちらへ来させていただいている。この車座トークは、68の全部の自治会をまわるということで、最初の2年間は「語る会」ということで呼んでいたところ伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部隈なくまわるという事は難しかった。

・また、今年、来年の2年をかけて次の総合計画の策定の作業を行っているが、各地域の課題や特色、さらにはどのような取り組みをしているのかを確認して、それを市政に反映したいということでまわっている。

■道悦島の人口、世帯について

・道悦島の7月31日現在の世帯数は1,724世帯、人口は4,507人で、高齢者人口は1,117人、高齢化率は24.8%となっている。市の平均が29.4%なので、比較的若い方が多い。15歳以下の人口は686人で人口に占める割合は15.2%となっている。市の平均は13.8%なので子どもの数が多い賑わいのある地域であると思う。六合地区の特性がよく現れているし、勢いのあるまちだと思っている。また、この道悦島の地区社協の皆さんの活動は六合地区の中でも活発に活動されており、大変ありがたく感じている。それから、「生活支援サービス」を来年度から始められ、本年度から既に試行で始めていると伺っている。このシステムは、これから市が目指すまちづくりの大事なポイントを締めるという取り組みである。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・島田が今、一番課題だとしていることは人口減少。少子高齢化に歯止めがかからない状況は待たなしの対策が求められている。
- ・地方に人口を増やし、地域の活力を取り戻すため、島田市でも地方創生に取り組んでいる。昨年度は、「島田市まち・ひと・しごと地方創生総合戦略」を策定しており、今後様々な施策を講じる必要がある。
- ・これまでは、行政に要望してお任せしていればよかったが、これからはお任せばかりしていく時代ではない。自分たちの手で自分たちの街をつくっていく。今は行政だけをあてにしている、まちづくりはできない時代になっている。地域と行政が一緒になって地域づくりをしていかなければならない。行

政も一人暮らしの高齢者には電話を掛けたり、給食を届けたり、様々な取り組みを行っているが、それでも日常生活でちょっとした困りごとは、ご近所さん同士で助け合える互助の仕組みをつくっていかねばならないと思っている。

・この道悦島の地区社協の「生活支援サービス」事業は、道悦島だけでなく、六合全体の面倒を見るということで行われている。今後、島田市全体に活動を広げたいと思うので、各地区をまわる際に先進事例ということで紹介していきたい。また、県立大学の学生との連携をされており、今後発表会もあると聞いているので楽しみにしている。

・例えば、ある地域では放課後児童クラブも造れないが、働く親が増えて放課後児童クラブも欲しいという中で、地元の人たちが自分たちで放課後に子供たちの面倒を見ているところもある。それに対して行政は、ガソリン代と車代と、お礼をお支払いしている。

・例えば、コミバスの本数が少なく、地域内で移動できないという課題に対して、市がワンボックスの車と保険とガソリンを負担し、地元では運転手をやっていただけの人をカバーしてもらい、ローテーションを組んで走ってもらうことで、高齢者の買い物支援などに役立つ。

・68 自治会があって、大小の差が非常にある。少ない所は 20 世帯位しかない自治会もある。よって、地域がひとかたまりになってまちづくり協議会というものがこれからは必要だと思われる。大小様々な自治会がある中で、地域の皆さんが一緒になって課題や問題点を行政に上げていくようなことが出来れば、地域力を更に高めることになると思っている。自治会それぞれ頑張っている状況で、再編は中々難しい問題ではありますが、六合なら六合地区で自治会を総括するまちづくり協議会というものが出来てくると、自助努力の中で地域を変え、行政とも緊密な関係を築くことが出来る。そのような組織が市内にいくつもあれば、地域特性を活かしたまちづくりが出来るのだと思われる。単位とすれば、六合、初倉、金谷など。

■島田市の高齢化の現状について

・2025 年には団塊の世代が全て後期高齢者になり、高齢化も 2025 年から 30 年にかけて高齢化率がピークを迎えるといわれている中で、2030 年には人口が激減していくと予測されている。

・今年の 3 月末現在の高齢化率は 29.2%。約 29,200 人が 65 歳以上ということになる。うち、約 17,500 人は 75 歳以上となっている。この 5 年間で 65 歳以上の高齢者は 3,188 人増えた。一方、子どもの数はこの 5 年間で 150 人減っている。介護認定を受けている人は、3,681 人、認定率は 12.6%となっており、県内でも低い数値となっている。ご高齢でも元気な方が多い街といえる。

・2025 年は団塊の世代が全て後期高齢者になり、国では医療費が年 1 兆円ずつ増えている。国の借金も、1,053 兆円となっていて、国民一人あたりに換算すると 830 万円という。

・国は医療費抑制のため、2025 年を目途に医療制度改革を行う方針で、施設から在宅へという流れを考えている。島田はこれに対応するため、この 4 月から 24 時間訪問看護ステーションをはじめている。もし、夜中に具合が悪くても、かかりつけの医師の指示書があれば、ナースが指示書に従って医療行為ができるというもの。安心して在宅で医療が受けられる。

・この流れの中で、「地域包括ケアシステム」という地域で見守る体制づくりがはじまっている。これは、医療、介護、介護予防、住む場所、生活支援、こ

れらをセットにして、行政と地域が連携してみていくシステムのこと。

・島田も「新総合事業」といって、チェックリストを活用して、ホームヘルパーの派遣、元気教室への受講、家事の援助などのメニューを受けられるような事業に取り組んでいる。要介護にならない先進的な取り組みである。この地域では「はなみずき」に行っていただいで相談をしていただきたい。

■新病院の建設について

- ・造る場所は、今の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としているが、使いやすい形にしていきたい。
- ・基本構想、基本計画をつくり、今年基本設計をつくっている。設計業者が3月に決まったので、その設計業者と基本設計をつくっている。
- ・基本計画までに決まったことは、病床数を445床程度とすること。
- ・床面積は35,000㎡、7～8階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・島田は市民病院しか入院する病院がないが、市民病院は機能が充実した拠点病院であるため、民間の病院が進出してこなかったともいえる。この拠点病院としての機能を残していきたい。

■公民館長の配置について

- ・現在、六合公民館に田原係長を配置しているが、六合公民館は、六合地域の拠点であると思っている。係長を配置した理由は、地域の課題をいち早く解決できるようにするためである。
- ・是非、係長を窓口として使っていただきたい。係長は、本庁との連絡調整を行い、課題解決に向けて動くといったかたちになる。
- ・これからのまちづくりは地域主体というか、地域の皆様と行政が協力してやっついていかないと住みやすいまちにはならないと思っている。
- ・そのためにも、地域の拠点に地域と行政が連携するためのつなぎ役として係長を配置した。六合公民館は、六合地域の生涯学習の場や自治会活動、コミュニティ活動の拠点であると思っているが、これからは市役所機能を持たせた出先機関として、皆さんが相談しやすいように、又より地域と行政の間を縮めていっしょにまちづくりをするために配置しているのでご理解いただきたい。

■六合地域の基盤整備等について

・岸元島田線の改修事業、東光寺谷川周辺の道路改良事業を行っている。また、東町御請線については、今年度が整備の最終年度となっている。10億円程度、国の補助が足りないなどの課題もあったが、要望活動によって幾分国の補助も確保できる中で、平成28年度に完成させる。この道路によって、六合地域の渋滞の緩和が期待されるし、六合地域がますます発展するために今年度中に終了させる。また、今後整備を進める予定の道悦旭町線の歩道整備や谷口道線の拡幅事業など順位立てて整備していく。

・島田市は若い人にも住みやすいまちとなるよう、平成29年度に待機児童ゼロを目指していく。現状では、3歳以上の待機児童は出ていない。待機児童は、0、1、2歳となっている。これは、児童3人に1人の保育士が必要で、保育士の確保等の課題もあってこのような現状にある。こうした中、六合地域にも新たな保育所を整備したいと考えており、六合公民館西側の、旧コミュニティセンターの跡地（現駐車場）を考えている。現状では、通学路に面していること、お墓が近接していること、都市計画道路などの課題があり地域の皆様と協議をさせていただいている。今後、いただいた課題などの対応方法などを説明したいと考えている。

■市民会館について

・5月から市民会館を壊し始め、できれば、島田の大祭に間に合うようにスピードアップするようと言っている。この秋までに、市役所の隣にある市民会館は更地になって、当面の間は駐車場とイベント広場、そして、中心市街地の災害時の避難場所等に使うつもりだと思っている。

・市民会館は県内でも2番目に早くできて、あの規模で、非常に音響も良くて、県内一の市民会館だった。島田の文化の中心だった。

・市民会館の再築については17,000人余の署名をいただいて、市民会館が市民の誇りであったということは十分承知をしている。

・市民会館が閉鎖になる直近の5年間について、本番であるホールを使っていたのは、年間で30日ほど。リハーサルを含めても、50～60日。新しく同じものを造るとなると、単独で建てれば70～80億円になると考えられる。

・市民会館の解体を現在行っているが、解体については2年間結論を出さなかった。市役所も築53年で手狭になってきている。病院は合併特例債という有利な起債を使い、平成32年度末までに完成した場合に活用できる。市役所も合併特例債が使えるが、平成32年度末までに造るとなると、借金の負担が後年度に一時に多くなる。（病院の建設費の247億円のうち医療機器の購入に約50億円かかる。医療機器の減価償却は短く、5年で借金を償還しなければならない。）

③質疑応答（六合駅周辺の整備並びに多目的施設（福祉センター）建設の要望書に対する回答）

番号	質問（要望）内容	回答内容
1-1	<p>■六合駅ロータリー等周辺の整備事業について 今年度トイレの改修を計画して頂きましたが、駅前ロータリー全体の改修時期を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの待機所やバスの乗降場所を見直す。 ・バスや送迎車の待合所に雨よけシェルターを設置する。 ・花壇の場所やスペースを見直し、有効な土地利用を行う。 ・ロータリー内の緑地スペースを見直す。 	<p>●駅の利用者が増加して、ロータリーの混雑が目立つようになったことに加え、年月の経過によって施設の老朽化なども進み、地域の皆様からそれらの改善について、従来から御要望をいただいているが、H28年度に南口のトイレを改修する予定（約20,000千円）である。現在設計業務の委託をしており、8月中旬に業務が終わり、9月に建築確認申請をしてから入札となる。予定では12月中には建築が終わる。単なる建替えにとどめず、バリアフリーの視点も取り入れながら作業を進めている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・防犯上、駐輪場の照明を明るくする。 ・八幡宮北側の駐輪場は雨よけ対策を兼ね2階建に改修し、直接駅改札口への通路を作る。 ・駅北側にトイレを設置する。 	<p>南口の駅前広場につきましては、朝夕の通勤通学時間帯の混雑が目立っており、鉄道やコミュニティバス等の利用者への影響を考慮すると改良の必要があると考えている。</p> <p>特にタクシーと一般車両の交錯が見られることから、島田警察署からも交通安全確保のために早期に対策をとるよう指導をいただいております、当面必要な路面表示等について、今年度工事に対応するよう、島田警察署と協議を進めているところ。</p> <p>また、長期的な視点に立ち、駅前広場全体の改良については平成30年度からの次期総合計画への位置づけについて検討を進めてまいりたいと考えています。単年度ではなく、数年度かけての整備を検討していきたい。</p> <p>雨よけシェルターにつきましては、市内のJR駅の中で唯一設置がされておらず、利用される地域の皆様には御不便をおかけしています。雨天時には送迎待ちの利用者が駅の乗降口をふさぎ、鉄道利用の障害となっている状況もありますので、駅前広場全体の改良を検討する中で、必要とされる機能の一つとして設置を検討していきたい。</p> <p>南口駅前広場東側の花壇スペースにつきましては、公園としての位置づけはないが、地域の皆様に管理をお願いしており、花の季節には小学生等が授業の一環で訪れたりしている。このスペースのあり方については、現状の利用形態を基本として、公園としての管理も視野に入れながら、ロータリー内の緑地スペースと合わせて、駅前広場全体の改良の中で検討していきたい。</p> <p>駐輪場の照明につきましては、防犯上の観点から六合駅第3駐輪場に防犯カメラを設置して2年が経過した。設置して以降、盗難事案の発生に抑止効果を果たしていると考えている。</p> <p>駐輪場における不審な動きを撮影するための十分な照度が確保されていることから、現状の駐輪場の照度は、御利用者にとっても十分なものと判断している。</p>
---	---

		<p>駐輪場を立体化することについては、六合駅周辺の駐輪場の利用状況から見ると、収容能力は十分に確保されていると判断しており、現状においては立体化による増設の必要はないと考えている。また、現在の駐輪場は簡易な駐輪施設であるため、無料で開放しているが、屋根等を設置した場合には多額の建設費用がかかると想定される。こうした場合、受益者負担の原則から有料化も考える必要があるが、御利用者の理解を得ることは難しいと思われるため、今後の利用状況が変わらない限り、現在の簡易な施設のまま無料開放を継続していきたいと考えている。</p> <p>駅北側へのトイレ設置につきましては、駅の出口の南北それぞれの利用者数は把握していないが、南口に比べて北口の利用者数が少ないことに加えて、北口駅前広場の敷地に適当なスペースがないことから、現在のところ新設は考えていない。お手数ですが南口または改札内のトイレの利用をお願いしたい。</p>
1-2	駅前コンビニ等店舗を誘致する。	<p>●この道悦島地域には既に2店舗コンビニがあって、最近1つ潰れてしまったと聞いているが、コンビニも含め商業施設は儲かると思えば民間は必ず出店をしてくる。たとえ行政が規制をかけていたとしても、出店をさせてくれと言ってくるのが民間。今のところ、コンビニを出店したいという情報はないが、コンビニの出店基準の一つとされる商圈人口につきましては、徒歩5分圏内(半径300~500m)に3,000人以上というのが一般的な目安とされている。六合駅を中心とした徒歩5分圏内の人口は把握していないが、仮に人口密度で考えてみた場合、道悦島地区の人口密度は約4,400人/km²であり、ほぼ出店基準の下限に相当する。しかしながら、道悦島地区には既存店があり、出店環境は相当厳しいものと推察される。通常、コンビニ等の商業施設は民間企業の自由な事業活動により立地されるものと考えられるが、市としても、現在のところ、御要望に沿えるような施設誘致は考えていない。</p>
1-3	駅前交番(派出所)を誘致する。	<p>●県警本部に問合せたところ、六合駅前には派出所等はないが、決して治</p>

		<p>安上の空白区域というわけではなく、近隣立寄り所を足がかりに六合交番署員が駅を含めて巡回をしており、さらに特別警戒区域として、保育園、小中学校の見廻りを強化していると聞いている。また、以前にも六合地区全体から交番設置の御要望をいただき、所轄の島田警察署にもお伝えしているが、六合駅前には歩行者数が少なく、派出所や立寄り所の新規設置は困難であるという警察の認識があるようです。</p> <p>六合地区の刑法犯認知件数については、合併当時と比べて大幅に減少しております。これについては、日ごろから地域の皆様による防犯パトロールなど積極的な防犯安全活動の成果と考えており大変感謝している。市としましても、警察や地域との連携をさらに深め、安心、安全なまちづくりを進めていきたい。</p>
2-1	<p>■多目的施設（福祉センター）の建設について</p> <p>駅南の駐車場用地を活用し、住民福祉の拠点となる総合福祉センターを建設する。</p>	<p>●多目的施設(福祉センター)の建設については、結果から申しますと、極めて難しい状況。この道悦島の公民館が手狭であり様々なイベントで駅前に施設があったらというお気持ちは充分理解しているが、六合地域のまちづくりの拠点は、六合公民館「ロクティ」と考えている。ロクティは道悦島の皆さんに一番良く使っていただいている。昔はコミセンと呼ばれ、今は公民館として名称が変わり、皆さんが使い勝手が悪いイメージを持たれているのかもしれないが、私は地域の地区センターとか地域づくりの拠点として、六合と初倉の名称を変えることも検討している。市内の中心市街地にも市の公民館が無い場所もあるため、市内地域全体の公平性を考えると、新たに施設を建設することは難しいと考えている。ロクティを今後とも是非活用していただきたい。</p> <p>9月に市政羅針盤を出すのが、公共施設の在り方の記事を書ける予定である。島田市の公共建築物は663棟、276施設となっており多くの施設を抱えている。昭和50年代には、プラザ「おおるり」や小中学校など一挙に建設されている。このため、経年劣化が進んでおり、今後、どのように長寿命化や再編・統合し、建替えや維持管理費を抑制していけば良いかが課題と</p>

		<p>なっている。</p> <p>同年代に建てられたものが多いことから、更新の時期には莫大な経費がかかるので、そうならないような取り組みもはじめている。建設したときに工事費がいくらかかるという話があるが、実は建設後の維持管理や運営、修繕費にお金がかかってくる。これは、島田市だけではなく、どの自治体も同じ課題に直面している。</p> <p>余談ではあるが、島田市の道路延長は約1,140km、橋は1,152橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持していく（長寿命化）ことをメインとしており、今あるものを賢く使っていくということが中心となっている。国も県も土木費の削減を図ってきている。国は平成12年頃には、全国の自治体に道路をつくる補助金だけで15兆円以上のお金を出してくれていたが、平成26年度も27年度も当初予算についているお金は5兆1千万円であり、3分の1となっている。県の方も、35の市町に道路をつくるための補助金で、同じ頃165億円を超えるお金を出してくれていた。しかし、去年も一昨年も当初予算のペースで46億円くらいと、こちらも3分の1となっている。</p>
2-1-1	<p>(防災対策面)</p> <p>小中学校の体育館を避難所としているが、収容能力に問題があり、使用期間も学校教育の視点から限られると思われる。又、駅前の立地の為、帰宅困難者用の施設として有効である。</p>	<p>●避難所とは、家が壊れて住めないとか、二次被害が想定されて住み続けると危険だという方々が避難してくる所。地域住民全てが行くところでは無い。現在、市では耐震補強や家具の固定といった補助制度を設け、災害が起きても安心してわが家に住み続けるような対策を進めている。幸い、六合地域は火災が起きない限り、それほど大きな被害想定が見込まれる地域ではない。地すべり、液状化、震度7の激震地域よりは安全な場所であると思っている。</p> <p>(補足説明)</p> <p>六合地区の要望事項にある帰宅困難者対策は、鉄道沿線市町が個別に取り組む施策の枠を超えており、JR3駅に共通の課題と位置付けることも困難であると考えております。</p>

2-1-2	<p>島田市が管理する共用の防災機材を保管する防災倉庫が必要である。(道悦島、東町、旭町等の地区で共用) 駅北には阿知ヶ谷に設置されている。</p>	<p>●防災倉庫につきましては、六合地区の倉庫ではなく、旧島田市の東部全域のための倉庫を阿知ヶ谷に整備しているもので、六合地区の南北を意識しているものではない。</p>						
2-2-1	<p>(地域福祉活動)</p> <p>地域活動の拠点として、道悦島自治会並びに道悦島地区社会福祉協議会等多数の住民を招集したイベント等は、現状の道悦島公民館は手狭で不都合が生じている。その為、施設に併設願いたい。</p>	<p>●御要望の多数の住民を招集したイベント等の開催につきましては、六合公民館の多目的ホールの活用をお願いしたいと考えている。</p> <p>また、自治会、町内会の皆さんが公会堂を建設する場合には、公会堂の規模や、地域住民の皆様の世帯数などに応じて県と市から補助金を交付する制度がある。</p> <p>具体的な内容は、後日、協働推進課にお問い合わせいただきたいと思います。が、道悦島自治会の場合、世帯数は1,719世帯なので、補助限度額は、県と市を合わせて1,440万円となる。</p> <p>建設費によって、地元自治会の自己資金がいくらになるか決まってくるが、他の自治会では、建設費、補助金額、必要な積立金額、積立期間などの計画をたてて建設している。</p> <p>はなみずき中央自治会館(中河町自治会)と同等の建築物、建築費とした場合(試算)</p> <table border="0" data-bbox="1227 922 1989 1050"> <tr> <td>建築費(土地購入費込)</td> <td>約100,000千円(平成26年度建設)</td> </tr> <tr> <td>県・市補助金額</td> <td>14,400千円(※)</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>85,600千円(◇)</td> </tr> </table> <p>※別に、自治総合センター補助金(宝くじ補助):15,000千円がある。(県・市補助との併用はできない。)</p> <p>◇道悦島の世帯数、1,719世帯(平成28年5月31日現在)として、1世帯当たり、49,796円(約50,000円弱)</p>	建築費(土地購入費込)	約100,000千円(平成26年度建設)	県・市補助金額	14,400千円(※)	自己資金	85,600千円(◇)
建築費(土地購入費込)	約100,000千円(平成26年度建設)							
県・市補助金額	14,400千円(※)							
自己資金	85,600千円(◇)							
2-2-2	<p>六合公民館を利用して、地区社協の活動をしています。が、公民館利用の規則等の改定などで使い勝手が悪くなった。その為、現状のふれあいの会、高齢者のカフェ、居場所、子育てサロンや今後発足予定の高齢者生活支援の拠点をはじめ等更に地域で取り組む活動領域が増え</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項【検討事項1】</p>						

	ると考えられる。その為、使い勝手や収容能力を考慮し施設が必要である。	
2-2-3	駅は地域の拠点となる場所であるが、人が集えるサロン等もない。又、電車利用の人達の待合場所もない。寒さよけや気軽に立ち寄れる所が必要である。	※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項【検討事項2】
2-2-4	放課後児童クラブ入所希望者が多く現状に問題を抱えている。	※ " 【検討事項3】
2-2-5	こども館利用が好評と聞いている。六合地区は人口増に伴い子供の人数も増加している為、駅前の立地条件もあり施設内に設置する。	※ " 【検討事項4】
2-2-6	障害者の作品の展示や販売の場所がない為、建物内に常設する。	※ " 【検討事項5】
2-2-7	道悦まちづくりの活動として「道の駅」の様な地域住民が作った作物や作品の販売並びにカフェ等の場所を設置する。	※ " 【検討事項6】
2-2-8	道悦島地区には、約1,700世帯が住居を構えており他地区と同様高齢者世帯が増加している。 地区内にはスーパーがなく、食料品等の買物に不便を感じている住民が少なくない。民間活力を利用して食料品を中心に日常生活必需品の店舗兼マンション等併設した建物の建設し人口増に繋げる。	※ " 【検討事項7】

※ 回答は全て市長から回答した。

④質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	■島田の図書館の駐車場が少なく不便である、何とかならないか。 島田が不便であるため、駐車場の多い吉田町や藤枝市、金谷図書館	●駐車場のスペースが少なく、御不便をお掛けしております。隣接している立体駐車場は、1階に入っているCOOP(コープ)さんや入居している方々

	<p>へ行っている。島田信用金庫の駐車場（利用時間は1時間以内）もあるが、利用時間に制限があり、ゆっくりと本が読めない。また、島田市役所へ駐車して良いことは知っているが、図書館まで距離があり、高齢者にとっては不便である。</p>	<p>の契約駐車場となっており、島田図書館来館者が利用できる台数が限られている。このため、島田信用金庫の東側の駐車場をお借りし、1時間の無料駐車券を出している。1時間ではゆっくり本が読めないといった声はお聞きしており、使いづらいことは充分理解している。近隣に他に良い場所も無いため、今までどおり御理解をいただきたい。</p>
2	<p>■地区社協で実施予定の「生活支援サービス」のことについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区社協は、自治会組織の中にあるため事業に関わっている。 ・今回の「生活支援サービス」は藤枝市をモデルにして実施している。 ・島田市全体の中でも先進事例であり成功させたい。 ・市や社会福祉協議会の支援と県立大学の学生と連携した事業であるが、知恵はいただけるが、運営は地区社協でやらなければならない、心配である。 ・藤枝市もそうであるが、ある程度目鼻が付くまでは市や社会福祉協議会がバックアップしていたと聞いている。 ・自治会も様々な事業がある中で、地区社協だけに重点を傾けることは出来ない。現時点では地区社協へ資金援助のみを行い、地区社協におまかせしているのが現状。 ・市や社会福祉協議会に金銭的な援助だけでなく、本事業が軌道に乗れるようなサポートをお願いしたい。 	<p>●地域でまちづくりの事業（地域が自分たちで課題解決をする事業）をしたいということであれば、まちづくり支援事業交付金の制度がある。これまでは単年度で10万円、もしくは30万円だったものを、6年間継続した事業に交付するという形に変えてきている。6年間で180万円までみる事が出来る。この地区社協の活動は補助対象となると思われるため、今後担当（協働推進課）へ問い合わせをしてほしい。</p> <p>また、本件については、社会福祉協議会が窓口だと思われるが、市の健康福祉部からは直接話をしていないのかもしれないが、必ず成功に向けて応援したいと思っているので是非相談をしてほしい。担当へも伝えておく。</p> <p>道悦島は大きな地区なので問題はないかと思われるが、せっかく良い活動をしていたとしても小さな地区（社協）は活動が継続出来ないということがある。今後の人材育成（後継ぎをつくっていくこと）を常に行っていただいたい。</p>
3	<p>■保育園建設の話が急に上がってきて、反発している住民もいる。要望した福祉センターの建設が難しく、ロクティを中心に考えている市の考えは理解したが、新たな保育園建設については特に近隣住民（六合駅前駐車場周辺の住民）は、もっと有効利用出来るはずだと思っているので、保育園のことも含め駅前については今後どのように土地利用していくのかを充分説明いただかないことには納得してもらえない。</p>	<p>●駅南の駐車場となっている土地は、これから六合地区の全体の計画を立てていくのにとっても重要な土地だと思っている。今直ぐに、ここ（南の土地）だけ何かを造るという話ではない。今後、総合計画に位置づけ六合駅全体をどうするかという中で検討していきたい。</p>

3-1	<p>長期的に考えていると説明があったが、もう少し具体的にどのように使っていくのかを説明してほしい。</p> <p>また、旧六合公民館跡地に保育園が出来てしまうと都市計画道路の代替地やお墓の代替地はどうなるのか。跡地内に防災の貯水池が地中に埋まっているが、どうになってしまうのか。</p>	<p>●旧六合公民館跡地は、都市計画道路の整備や道にかかるお墓の代替地になってはいないので、別の話として保育園建設の話をしている。</p> <p>先ほど駅周辺の整備のことについては、総合計画の中に位置づけていきたいと話したが、まだコンサル等に出しているわけではないので、具体的な絵（計画）がある訳ではないので今はお話出来ない状況。まずは、御不便をお掛けしているトイレの改修から入り、JR東海との協議もあるが、今後皆様から御意見を伺いながら駅周辺の整備をしていきたい。</p>
4	<p>■これから道悦旭町線の整備も始まると聞いているが、JR東海の踏切から道悦旭町線までの歩道のない区間（谷口道線）があるが、自転車に乗った子供が落ちたりして危険な箇所である。こちらも地域住民にとっては整備をしてもらいたい路線である。</p>	<p>●東町御請線が完成すれば、この路線の渋滞緩和に繋がると予想している。この場所は踏切から南に段差の土地がある箇所で、危険な場所だということは充分承知している。先ほどお話したとおり、順位立てて整備を進めていきますが、本路線は踏切の改良にJR東海との協議も必要で、国道から踏切を越えて立体交差にすればという意見も伺ったことがあるが、実際整備するには難しい路線だと思っている。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

⑤当日の様子



⑥検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
2-2-2 検討事項 1	※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項	<p>●今後、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯が増加し、高齢者の見守りやゴミ出し支援など地域でできる支え合い活動を推進していく必要があります。</p> <p>道悦地区の方々が地域の中に様々な活動を発掘・開発されていることは、人と人とのつながりを生み出し、支え合いの仕組みづくりにつながる活動と大変感謝しております。</p> <p>御質問のあった活動の拠点につきましては、公民館のほか公会堂や民家の空きスペースなど地域にある既存の施設を活用していただきたいと考えています。</p> <p>「社会参加」の場は、声かけをしあう「生活支援」の推進につながり、結果的に参加者ご自身の「介護予防」につながります。市としましても、このような地域づくり支援の必要性を重視しておりますので、今後も課題があれば一緒に考えていくよう努めていきたいと考えています。（回答）：包括ケア推進課</p> <p>●地区社協をはじめとした福祉活動により、六合公民館を多くの事業で利用していただき、大変ありがたく存じます。</p> <p>現在の六合公民館の利用に関して、定期的に利用する団体を対象に年1回開催する「利用団体説明会」や普段のご利用の中でご意見ご要望等をお聞きしておりますが、これまでご指摘いただいたような使い勝手が悪くなったとのご意見は直接伺っておりません。しかし、市が気がつかない部分で利用がしにくくなった点がございましたら改善していきたいと考えますので、ご不便をおかけしている点について具体的にご指摘をお願いしたいと思います</p>

		<p>す。</p> <p>ご利用いただける部屋にはまだ余裕がありますので、今後、地区社協等の活動回数や参加人数が増えるようでしたら、施設にご相談ください。（回答）：社会教育課</p>
<p>2-2-3 検討事項 2</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項</p>	<p>●市としましては、六合地域の拠点は「六合公民館」として認識しております。六合公民館には、地域の皆様が御利用いただくための多目的ホールや集会室などが整備されていることに加え、行政サービスセンター、放課後児童クラブ、地域包括支援センターや図書室、六合コミュニティ委員会の事務局など多機能な施設であり、隣接する六合小学校には地域連携室もあることから、まさに地域の拠点であると考えています。</p> <p>今年度はこうした機能を有する施設を最大限活用できるよう、六合公民館に正規の係長級の職員を配置し、（ここにおります田原を配置し）、地域の課題を皆様と行政と一緒に考え、地域と行政との橋渡し役となる「プラットホーム」という大事な役割を担っております。地域の皆様におかれましては、是非、係長をかわいがっていただき、地域で育てていただければと考えております。</p> <p>また、電車利用の待合場所につきましては、六合駅は概ね10分に1本の本数がある駅でありますので、長時間滞在する必要のない恵まれた環境にある駅だと認識しております。このため、待合場所の必要性は低いと考えています。（回答）協働推進課</p>
<p>2-2-4 検討事項 3</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項</p>	<p>●放課後児童クラブの利用状況につきましては、今年度、市内の一部のクラブにおいて定員を超過しており、六合放課後児童クラブ「りんご」では定員内の利用となりましたが、六合小学校区放課後児童クラブでは学校地域連携室をクラブ室として借用し、受入れを拡大しましたが、現在も4年生以上の児童5人が待機をし</p>

		<p>ている状況です。</p> <p>この対応策として、国が「学校の余裕教室の活用促進」を重点施策としていることから、島田市においても、学校の余裕教室の活用を優先し、隣接施設の会議室などを借用するなどを行い、早急に整備をすすめる予定です。また、余裕教室が無い学校では、近隣の社会福祉施設等の民間活用なども合わせて検討していきます。（回答）子育て応援課</p> <p>【参考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平成28年8月の利用見込み（7月時点） <ul style="list-style-type: none"> ・六合放課後児童クラブ「りんご」 定員45人 利用児童数45人 ・六合小学校区 定員59人 利用児童数64人 待機5人 ・六合東小学校区 定員80人 利用児童数89人 待機0人 ○国の方針 平成26年7月31日付け 文科省、厚生省合同発「放課後 子ども総合プラン」について
<p>2-2-5 検討事項 4</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項</p>	<p>●こども館は、広い地域の子育て支援を目的に設置されており、島田市内の児童のみならず、市外からも多くの方が訪れる施設です。</p> <p>ご承知のとおり、平成24年8月に開館をして以来、年間10万人を超える方に利用されており、大変ご好評をいただいておりますが、指定管理料など年間の維持費に約3,000万円の費用がかかっております。今後、年数が経過し、利用者が減少した場合、更に費用がかかることも予想されますので、2号館を計画することは、現時点では困難であると考えております。</p> <p>六合地区の方々につきましても、こども館を是非ご利用いただければ幸いです。（回答）子育て応援課</p>
<p>2-2-6 検討事項 5</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項</p>	<p>●毎週水曜日に市役所ロビーにおいて働く障害者のお店「にじいろ市場」を開催し、授産製品の販売を行なっております。ご提案</p>

		<p>の障害者の作品の展示や販売についても、その中で考えたいと思っています。（回答）福祉課</p>
<p>2-2-7 検討事項 6</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項</p>	<p>●「道の駅」のような施設につきましては、相当の御利用者が見込める環境にある場合に検討をしていくものであると認識しております。例えば、市内にあります「道の駅」川根温泉は、平成27年度の来館者数が297,025人（これは、温泉棟、バーデ棟、休憩棟、売店などの管理棟の合算した来館者数ですが）となっております。</p> <p>六合公民館は地域の多くの皆様に御利用いただいておりますが、平成27年度の施設利用者数は46,757人であります。</p> <p>また、「道の駅」のような施設は、地域外の皆様を誘客することで、地域の活性化に繋げていくことを目的としておりますので、六合駅のように通勤通学目的でのご利用者が多い駅周辺への整備につきましては、その効果は薄いものと判断しております。</p> <p>（回答）協働推進課</p>
<p>2-2-8 検討事項 7</p>	<p>※時間の都合上、市長から回答出来なかった事項</p>	<p>●御要望の民間活力を利用したといった視点につきましては、施設は複合化や民間の力を最大限活用する取り組みが始まっており、今までの考え方とは変わってきているという点では、そのとおりであると考えております。</p> <p>これからの時代、行政が住民生活に関わる全ての施設等について建設していくことは不可能です。</p> <p>ただ、御要望の六合駅前の駐車場への建設を想定した場合、土地は、市の所有となっており、現在、株式会社まちづくり島田に土地を貸付けています。</p> <p>まちづくり島田との契約は平成 30 年度までとなっておりますので、それまでは、他の用途に転用することはできません。</p> <p>また、当該地域が、都市計画法に基づく用途地域として、「第一</p>

		<p>種住居地域」に指定されていることから、マンションのような高度利用することを想定されているのであれば、用途の見直しが必要となります。</p> <p>法規制の見直しについては、上位計画への位置づけが必要となりますが、現状で、そのような位置づけはありません。したがって、次期総合計画策定に際し、その必要性も含め、地域の皆様の中での御議論を踏まえた上で、御提案を頂戴した中で方向性を見出していくことが必要であると考えております。</p> <p>また、平成22年3月に策定した、「島田市都市計画マスタープラン」では、六合駅前の拠点形成について、「JR 六合駅前地区は都市施設の整備と併せ、交通の利便性を活かした日常生活機能の充実を図るなど、地域の中心としての拠点整備を目指します。」としています。</p> <p>ここでいう、「都市施設」とは、都市計画道路（道悦旭町線）や都市公園を意味しており、その整備や改良を実施することとしております。</p> <p>また、具体的なスーパーにつきましては、民間企業は店舗を立地する際、独自に立地条件を定めており、その内容は企業秘密であることから、判断できない部分があります。</p> <p>ただ、藤枝駅の南口に立地する「BiVi 藤枝」の一階に入店していた生鮮食料品の店舗は撤退し、「アピタ藤枝店」も撤退しています。</p> <p>人口が増加し、駅周辺にはマンションも立地している藤枝市でさえ、このような状況であることから、六合駅前に民間企業が出店するには難しいのではないかと推測します。(回答) 協働推進課</p>
--	--	--